



森のなかま

2022年 8月号

NO. 170 (継続315号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 佐藤 恭平
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

部会主催の研修会相次ぐ (NW 活動に活かせる内容の研修会)

< 森林技術部会 主催 >

「竹林整備研修会」

日時： 2022年6月12日(日) 9:30~15:00

場所： 二宮町一色(湘南二宮炭焼き会活動場所周辺)

講師 統括 L 岩田 典義^⑭ 徳岡 達郎^⑪ 石川 裕一^⑫ 宮下 啓一^⑫ 大見 文夫^⑮ 竹内 明彦^⑮

受講インストラクター 3Gr 10名 鈴木 淳^⑭、牧石 稔^⑭、水野 安則^⑭、河西 静夫^⑮、

佐々木 秀喜^⑮、大友 博道^⑮、大森 善雄^⑯、鈴木 康浩^⑯、堀口 俊司^⑯、原田 明^⑯

(記 佐々木 秀喜^⑮ 写真 岩田 典義^⑭)

6/12(日)梅雨の合間の晴天に恵まれ、森林技術部会主催の竹林整備研修が「湘南二宮炭焼き会、竹の会」活動場近くの竹林にて行なわれた。炭焼き小屋の広場で作業概要の説明を受けた。今回の研修は竹林整備の目的に合わせた作業を体験すること。竹林整備は景観を保つ、筍をとる、越境した竹の除去、放置竹林整備等目的により作業内容が変わり、主催者や地主の意向を汲んで行う必要がある。今日はその内の放置竹林整備である。

準備運動後、現場までの移動途中で炭焼き会の講師が孟宗竹と真竹が境を越え混じり合う場所を指し、本来の姿に戻すためにどちらかを除去する必要があると。さらに山を上り下り作業場に到着、現場を見て啞然(事前説明で聞いてはいたが) 足元には朽ちた竹が転がり頭の上は倒れ掛かった竹が覆い、光が遮られている。竹の太さもバラバラで放置竹林そのものの現場だった。おまけに昨日の雨で斜面は濡れて滑り、要注意だ。作業を進めるにあたり伐採・補佐・枝払い・玉切り・集積等の役割分担をし、途中作業交代しながらチームワーク良く進めていくことを教わった。更には足元に注意して作業する事、倒れ掛かった竹を引き抜く時は頭上に注意し周囲の作業者に声掛けしてから行う。又、竹と竹に挟まり抜けにくい時は手元ロープを掛けて前方向に引き抜く事を学んだ。まずは皆で足元を確保するため、転がる竹を集積場所に集めて作業開始。休憩をはさみ一時間ほどで周囲は整理され明るさが増し見通しが良くなった。他の班の場所も薄日が差し込んで来ている。



昼食後、ウッドチッパーを使っての処理方法についての説明とデモンストラーションが行なわれた。各自持ち帰った竹をバリバリと粉碎し、数秒間で目の前の長い竹が粉々になった。現場にもよるが移動式チッパーなので持ち込めれば伐採後その場で処理もでき数年かけて竹が朽ちるのを待つことも無くきれいな現場にしておけると思った。

その後、11期の先輩で炭焼き会の徳岡さんから簡単に炭焼きやマキ割り機等の設備について教わった。伐採材を活用し何回もの工程を経て炭が出来る様子を想像するだけでも頭が下がり、何よりも今の時代にあったエコな活動でありSDGsの実践だ。

そして研修の終わりを告げるかのように、急に暗雲が立ち込め雷鳴とともに土砂降りに。盛り沢山の内容だったが、今後はその知識、ノウハウ、体験を生かし様々な場で実践していきたいと思った。最後に森林技術部会の有志の皆様、ウッドチッパーを準備していただいた「湘南二宮炭焼き会、竹の会」の皆様、スタッフの皆様方、様々な準備有難うございました。改めて感謝申し上げます。



< 森林技術部会 主催 >

「下刈研修会」

日時： 2022年7月2日（土）8：30～13：00

場所： 小田原市荻窪(2016年緑の祭典植栽エリア)

目的：下刈作業の習熟とインストラクターとして指導する際の基本的技術の確認を目的とする。

「マニュアル」に沿った作業の実践、進捗状況を見極めた様々な指示出し、一般参加者へのわかりやすい説明と指導、安全面の注意点等インストラクターとしての技術、知識の向上を目指す。刈り方、人員配置、一般参加者が満足を得られる指導を習得する。体調管理、熱中症対策にも注意する。

講師 統括L大橋 聡⑪ 小野 幸広⑦ 江上 徹⑬ 斎藤 夏葉⑬ 石井 裕⑮

受講インストラクター 4Gr 8名 滝澤洋子⑤、岩田典義⑬、鈴木淳⑭、黒川敏史⑭、大見文夫⑮、大森喜雄⑯、久次米久美子⑯、中澤靖彦⑯

(記 中澤 靖彦⑯ 写真 大橋 聡⑪)

今回の下刈り研修会は、県民参加の森林づくりと同日・同じ場所で併行して行われました。講師が5名、受講生は8名で、1班から4班に班分けしましたが、1班3名で講師も受講生も一緒になって作業を行いました。

作業場所は急な傾斜地で、下段・中段・上段に別れ、出来るだけ上下作業・近接作業にならないよう、また、滑落などしないよう「足元注意」を合言葉に実施しました。また、炎天下の作業となったので、熱中症予防に注意して、給水や休憩をこまめに取りよう心掛けました。

作業場所は面積が小さく、全刈りでも実際の作業は1時間程度で終了しました。短時間でしたが、刈っていく方向やカマの使い方、持ち運び方、研ぎ方などを再確認できて有意義でした。



また、個人的な話ですが、30分ほど作業をした時点で立ち眩みがしてしばらく休息しました。十分注意をして水分と塩分を摂っていたつもりですが、軽い熱中症だったものと思われる。元々暑さには強くないのですが、年齢を重ねるとさらに弱くなることを実感しました。30℃を越えるような条件では30分と言わず、15分に一度は日陰で休憩を取るよう心がけたいと思います。これも良い経験となりました。

今回の研修のために当日まで複数回に渡り現地で準備を行っていただいた講師の皆様及び森林技術部会事務局の方々にあらためて感謝いたします。今回の研修で得たことを実地のインストラクター活動に生かしていきたいと思っております。

《森林文化部会主催》

竹細工教室開催

講師：たけのかわせ 二代目 川瀬 隆氏

日時：2022年7月10日 10：00～14：30

場所：秦野市保健福祉センター 3F 創作活動室

参加者：インストラクター： 22名

(記 写真 水野 安則 ⑭)

竹林整備などの活動の際に入手できる竹材を利用し、生活の中に取り込みたいという思いで、竹細工教室を森林文化会主催で開催して頂きました。竹細工の作品としては、ネットワークの雨の日プログラムとしても使えるように簡単で、見栄えのするものを計画しました。

講師は、秦野市の「たけのかわせ」2代目の川瀬 隆氏。講義内容は、①編まない一輪挿し ②六つ目編みを使った一輪挿し(蛇籠) ③竹ヒゴ作り体験の順で行う手順でした。しかし、手始めに簡単な「ブンブン」を製作するというハプニングから始まりました。「ブンブン」と云われても、何のことやら???の方が多いかと思えます。しかし、昔の記憶をたどると、何か遊んだような気がしてきました。幅15mm、長さ50mm程度の竹の断片に穴を2箇所空けそこにひもを通すだけと云う簡単なものです。しかし、いざコマのようにブンブンと廻るかと思うとなかなか手強く、苦勞する人が続出しました。製作、廻し方は、ネットで「ブンブン」 「ブンブン竹」などで検索すると多数の記事が確認できます。



通称 「ブンブン」



編まない一輪挿しの完成

次に、編まない一輪挿しの作成をしました。既に加工された、幅5mm 長さ142mm 厚さ1mmの立派な真竹が材料です。2分割して、右側を上にしてクロスに置き、90度回転させ、1本追加して……云々。頭と指先がうまく回らずに、難儀する人が続出しました。しかし、ここまでが入門コース。午前中に何とか全員完成しました。

午後からは難易度が上がる六つ目編技法を使った一輪挿しの作成です。基本は、午前までに学んだ編み方の応用ですが、編む本数が増える分複雑となり、頭と指先が、うまく一致せず、老眼が追い打ちをかけて、難儀する人が続出しました。それでも、大多数の人が、完成させることができ、お土産付きの大変有意義な研修でした。

先ずは、竹ヒゴを交差して



六つ目編で籠を作ります



一輪挿しの完成



ネットワークの雨の日プログラムとして強力なツールになると感じましたが、教則本を見ても目・頭・指先が思うように働かず、複数回の経験を通して体で覚えることが必要と感じました。

最後に、有意義な研修をさせて頂いた 森林文化会の皆様に感謝を申し上げます。



研修風景



竹ヒゴ作りの実演
講師 川瀬様

参加者

氏名	期	氏名	期	氏名	期	氏名	期	氏名	期
永松裕子	12	鶴井正人	15	古舘信生	13	村井正孝	9	真貝勝	11
柏倉 紘	4	菊地昭子	1	江頭淑子	13	鈴木康浩	16	水野安則	14
竹内明彦	15	石垣桃栄	15	藤井敏彦	14	松石藤夫	13		
岩田典義	11	佐々木秀喜	15	藤井世枝己	14	小松立史	14		
高橋 修	9	大森善雄	16	黒川敏史	14	鈴木 淳	14		

森のめぐみ シリーズ

枠組は桜の小枝です

がんは現在最も恐れられている病気の一つです。わが国でがんにより現在罹患している人はおよそ100万人ということです。がんの治療には外科手術、抗がん剤による薬物療法、放射線治療、免疫治療が行われていますが、医学の目覚ましい発展で治療法が向上し、がんによる死亡率は減少しつつあります。一昔前、結核は不治の病として恐れられていました。しかし、その後の医学の発展で結核の病は激減し不治の病の言葉は消え、結核の病根はいまだに残っているものの昔ほどに恐れられなくなりました。医学の発展に伴って、がんも同じように恐れられなくなる日も近いことでしょう。

がんの治療の中でも薬による治療は重要な位置を占めています。効き目の強い薬が合成され、治療に利用されているのが現状です。そして植物からがんの抑制に効果のある成分の発掘も行われています。

植物から抗がん物質を発掘するには、通常は植物成分が腫瘍細胞の増殖を抑えるかどうかの判断から始めます。この段階で増殖を抑えるものが細胞毒性です。次いで実験動物を用いて腫瘍を抑えることができれば抗腫瘍活性で、ヒトへの臨床試験に入り、腫瘍を抑えることができれば抗ガン物質として医薬品として利用されることとなります。しかし、最後の段階でヒトへの強い副作用があり、薬にたどり着かないものも少なくありません。植物からの抗がん物質の発掘は相当数の植物を対象に行われてきていますが、医薬品にまでたどり着くには大きなハードルがあるのです。現在、抗がん物質として利用されているものにタキソールという物質がありますが、タキソールが医薬品として実用化されるには多くの年月を要しています。

タキソールは米国オレゴン州に分布するタイヘイヨウイチイの樹皮から1960年代に活性成分として分離、構造決定、動物実験、臨床試験を経て1992年に米国で抗がん剤として承認、販売さ

第46回 がんを 抑える植物成分 東京大学名誉教授 谷田貝 光克 氏

れました。医薬品として実用化されるまでになんと30年以上を要しているのです。現在はわが国でもパクリタキセルの名で利用されています。研究開発段階で成長が遅く、それほど多く分布していないタイヘイヨウイチイの樹皮の利用で生じる資源枯渇の問題や、そこをめぐらすフクロウなどへの環境破壊が問題視されました。が、しかし、幸いなことにその後欧州のヨーロッパにタキソール類似化合物が比較的多く含まれていることが分かり、これをもとにタキソールの合成が容易になったばかりでなく、タキソールよりも機能の面で優れた物質ドセタキセルを合成することも可能になったのです。ドセタキセルも効能の高いがんの治療薬として利用されています。このように、天然物質は合成の出発点としてさらに効能の高い物質を作り出すのにも大いに役立ちます。ヒトが想像もできない複雑な構造を天然物が教えてくれている、それは天然物のめぐみ、そして神のめぐみともいえるでしょう。除虫菊から得られ蚊取り線香に使われるピレスロイドもそのような例の一つです。ピレスロイドも複雑な構造をしています。その後手が加えられ、より効果の高い成分が造りだされ利用されています。

自然のめぐみの中で自然と共に生きていくことの大切さを教えてくれているようです。



(よく似た日本のイチイ (別名アララギとも))

2017. 9. 26. 長野県鬼無里にて撮影 11期松本

かながわ森林インストラクターの会紹介 (自然観察部会) (記 部会長 赤崎 さほり^②)

○自然観察部会は、美しい自然を観察し、その素晴らしさはもちろん、水源林の役割、神奈川県内の自然保護活動、民俗学や歴史を多くの方へお伝えするべく、主にフィールドでの自然観察会を行っております。

①森林探訪

活動の基本は、一般参加者の方と一緒に森林へ訪れて自然を感じるといったコンセプトで行っている「森林探訪」という観察会で、年度内に 3 回開催しております。現在までに 100 回以上開催されている当会の活動の中でも人気の活動で、訪れた場所は、有数の山岳地域である丹沢大山地区、潮風爽やかな小田原湘南地区、伝統と自然が豊かな箱根地区、歴史と寺院の佇まいが美しい鎌倉地区などほぼ県内全域に渡ります。インストラクターと一緒に観察を行うことにより、今まで気が付かなかった自然の素晴らしさや面白さを五感で感じることが出来ますので、より自然に親しみが湧き理解を深められるという参加者の方からの嬉しい感想をいただいております。

ここ数年は感染症対策に特に注力して活動しております。また、その為、現在進行形で、より安全な森林探訪のあり方を模索しつつ、改善、改良を重ねております。

②自然観察研修会

自然観察会には自然や植物の知識があるだけでは対応できません。安全な開催を行うことはもちろん、参加者の方への配慮や興味を引く話し方のコツなど多岐にわたる内容が求められています。そういったことを当会のインストラクターへ伝え、学ぶための大切な活動です。年度内に 1 回開催しております。

③探鳥会 (夏鳥、冬鳥)

日本に生息している野鳥を観察するインストラクター対象の活動です。日本へ渡ってくる野鳥には夏に渡ってくる種類と冬に渡ってくる種類がいるため、年に 2 回、夏鳥と冬鳥を目安に開催しています。初心者の方は観察しやすいカモ類がメインの冬鳥がおすすめですが、小鳥が中心の夏鳥の可愛らしい姿に出会えた時の感動もひとしおです。ぜひ一度、ご参加ください。



森林探訪の様子



イカル



かながわ森林インストラクターの会紹介 (森林文化部会) (記 部会長 菊地 昭子①)

森林文化部会では森林資源を使った工芸・炭焼き・染色・紙すきなどの創作体験活動やその指導。民族芸能・伝承文化や自然と共生してきた知恵や歴史を学びあう場をつくります。また部門の垣根を超えたクラフト技術向上の推進を図ります。

具体的には、講演会、クラフト教室、見学会等です。

1. 講演会 年1回

会場を借りて対面で開催でしたが、2021年には初めて動画で配信しました。



長縄 今日子様
「丹沢の森とツキノワグマ」



杉山 精一様 (自伐林業家)
「林業家として～豊かな森から可能性を追求して～」動画配信



2. 竹細工教室

人気の竹細工です。六つ網の籠。



3. クラフト

染色やクリスマスリースや虹竹の作品。



4. 見学会。 過去には水道局、ダム、東大演習林、材木市場等。コロナの中で見合わせ中。

かながわ森林インストラクターの会紹介 (安全管理委員会) (記 委員長 湯浅 鉄男^⑩)

- ・ 安全管理委員会が一番の仕事は「かながわ森林インストラクター」の活動が、事故やけがのないようにすることです。2022 年度（令和 4 年度）の活動方針では佐藤理事長より活動方針として「安全最優先」が掲げられました。どんなに素晴らしい活動をして、事故が起きたり、けが人が出れば、何にもなりません。
- ・ 安全管理委員会は理事長直属の機関として管理部門に属しています。また森林技術部会や技術委員会と連携し、「かながわトラストみどり財団」とも協力して、会全体の活動の安全管理に目配りをしています。
- ・ 昨年度は会の内部活動でやや大きな事故が起き、けが人が出ました。これをきっかけに理事長の指示に基づき、会の活動全般にかかわる「安全活動要領書」を作成しました。今年度は「安全チェックシート」を一部見直し、活動ごとの事故防止に一層努めています。
- ・ 事故の防止にはインストラクター 1 人 1 人のリスク管理と安全意識、注意義務が欠かせません。インストラクターは森林整備の技術や自然観察を指導するだけでなく、作業の危険性、現場の状況、参加者全員の体調などに注意を張り巡らせる必要があります。
- ・ 最近では活動そのものに伴う安全管理のほかに、新型コロナウイルス感染防止対策や地震、暴風雨などの災害対策が求められています。けが人が発生した場合の応急手当てや救急車の要請も必要です。
- ・ 現在、安全管理委員会が力を入れているのは、安全チェックシートの活用のほかに、事故やヒヤリハットの情報収集です。どこでどういう事故が起きやすいかが分かれば、事故の再発防止に貴重なデータとなるからです。
- ・ 森林インストラクターの会の活動を離れても事故の防止や安全、健康は、私たちの生活の「最優先」事項です。コロナ禍とウクライナ侵攻以降は、平穏で当たり前の日常生活のありがたさを感じています。

かながわ森林インストラクターの会 安全活動方針

かながわ森林インストラクターの会の活動における安全活動方針は、以下の通りとする。

1. 活動中は、参加者全員が安全意識を持つこと。リーダー、サブリーダーは参加者全員が安全意識を持つよう働きかけること。
2. 安全活動要領書にしたがい、安全活動の準備・計画し、実行すること。
3. 活動終了時には振り返りを行い次の安全活動に役立てること。

【附則】 施行日 2021 年 9 月 5 日

以上

活動短信

今回の掲載は R4 年 5 月 28 日から 6 月 18 日分です。
寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

8 月(葉月)(旧暦 7 月文月)の

二十四節気と田んぼ(鎌倉)の様子

立秋 8/7 頃

暦の上では秋の始まり、
夕暮のカナカナの声は、
どこか物悲しく、田では稲
の花が咲きます。

処暑 8/23 頃

暑さが収まるころ。綿の実
が白い綿をのぞかせ、田ん
ぼでは、稲穂が垂れてくる
頃。

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です。
(できれば Word、メール直筆でも OK。Excel はできるだけ
避けてください。改行等の処理に手間を要しますので
写真もあれば添付ください。

◆ 活動団体・活動名 等

日 日付(できれば時間と天気も)

場 場所 (例:相模原市緑区 長竹承継分収林)

参 参加者 人数

県 例 神奈川県 環境農政局 緑政部

水源環境保全課 水源の森林推進グループ

財(公財)かながわトラストみどり財団、 看護師

スタッフ 例 小田原市森林組合 XX 様

例 川崎市公園緑地協会・XX 様

インストラクター① (○数字:期) 研修枠

以下、本文を概ね 400 字前後を目安として執筆ください

リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェック
をお願いします。(執筆者名もお忘れなく!!)

活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします。

◆ 東芝プラントシステム (株)

日 令和 4 年 5 月 28 (土) 9:20~11:30 曇り時々晴れ

場 松田町 やどりき水源林

参 社長以下 8 名 (女性 2、男性 6)

イ L 松本①、山崎⑦

今期から初めて参加される企業・団体のパートナー
様。

前日 (5/27) の大雨がウソのような自然観察気候。

原園社長以下計 8 名の方々が寄バス停より 40 分歩
いて来られた。皆さん、落ち着いた働き盛りの年齢の
方々でした。

9:15 ゲート前に集合

9:20 管理棟前の案内看板でやどりき水源林等の説
明。

看板前で写真撮影。歩きながら植物等の説明をしなが
ら広場傍のトイレへ 全員



9:30 2 班に別れ林道コースを案内。樹木、草、開
花しているウツギ類、ジャケツノイバラ、テンナンシ
ョウ等中心に説明

10:30 林道終点近くの東芝プラント様看板前で記
念撮影。林道突き当り (A コース入口) 付近で枕
状溶岩、水流等の観察説明、近くの杉林を少し入り森
林の雰囲気味わう。

10:45~11:15 林道コースを戻る。

途中 B コース入口近くでムササビ (またはモモン
ガ) の食痕と樹洞の観察。

11:20~11:30 滝郷の滝を見るが前日の雨量で対
岸に行けず遠くからの見学となった。

11:40 ゲート前でお別れ。皆さんは 12:40 寄発の
バスに向かって歩いて行きました。ケガ、事故は無く
無事終了。ヤマビルにくっ付かれましたが、吸血被害
はなく、ヤマビル観察と退治方法を実践観察して頂き
ました。

(記 松本 保①、

写真協力 鈴木 淳⑭ (当日やどりき当番))

◆ 鶴岡八幡宮 槐の会

造林作業、園内散策及びクラフト製作

日 令和 4 年 5 月 29 日 (日) 10:00~15:00 晴れ

場 県立 21 世紀の森 セントラル広場他

参 槐の会一般参加者 27 名 及びスタッフ 4 名

県 武田様、黒田様

イ L 高橋⑨、上田⑩、宮下⑩、山口⑪、山下⑪、
西出⑫、牧石⑭、大友⑯

約 3 年ぶりのイベント開催となり、下見も入念に行い
当日を迎えた。

当日は初夏を思わせる天気となり、道中及び会場でも
富士山が見られる程の晴天ではあったが、作業をするに
は少し暑い日となった。

バスもほぼ予定通りの時間に到着し、運動広場で開会
式を行い準備体操後に午前中の班別川に分かれ注意事項の
周知と作業準備に掛かった。

午前中は5班に分かれ、成長の森植樹エリアの枝打ちと下草刈りに分かれて作業を行った。当日は日陰のない下草刈りもあることと、槐の会の参加目的も森林保全の意義や効果について考えられているため、作業量より作業の意義と目的の説明を重視し、丁寧な作業を行っていただいた。

枝打ちは枝と幹との境を丁寧に切り、太い枝は二度切りをするなど、木に余計な傷をつけない作業が出来たとします。

また下草刈りは炎天下の中、捕植した小さな杉の木も点在するなか、丁寧な草刈りをして頂き小さな木も日光を浴びるようにして頂きました。



午後からはセントラル広場へのトレッキング、風切りコースに行く散策と癒やし、木工センター職員の指導によるクラフト（箸作り）の3コースに分かれ、それぞれのインストラクターの案内で出発しました。

セントラル広場へのコースはかなりの距離を登ることになり、炎天下の中での歩きで心配しましたが、皆さん元気に戻ってこられました。この時期では貴重な富士山の姿も見えたようで満足されていました。

散策と癒やしコースは初めて風切りコースで行ったが、ヒルが出るハプニングが発生したが処置が早く治療するまでもない状況で終わったのが幸いでした。



クラフトは皆さん思い思いに箸を作ることが出来、余った時間は近くの施設を散策でき有意義に時間を過ごされていました。

久しぶりの開催であったが、閉会式でも皆さんの笑顔を見ることができ、インストラクターも充実した日を過ごさせていただきました。

(記 写真 高橋 修⑨)

かながわしずくちゃん Facebook は下記URLで見ることができます。

かながわの水環境の
保全・再生をめざして

<https://www.facebook.com/kanagawa.sizuku>

◆ 横浜市立大曾根小学校

枝打ち体験&森林講話

日 令和4年5月30日(月) 9:30-11:20 晴れ

場 県立21世紀の森 成長の森

参 5年生 4クラス 142名 市村先生他10名

財 豊丸課長、古舘様

イ L村井⑨、SL野牛⑧、佐藤⑤、滝澤⑤、小野⑦、西出⑫、渡辺⑫、牧石⑭、石垣⑮、大岡⑮、大森⑯、久次米⑯

大型バス6台が21の森の坂道を登ってきました。渋滞に巻き込まれ定刻より遅れて到着。コロナ対策が緩和された中での枝打ち体験でした。子供達は久しぶりの校外宿泊研修でしたので表情が輝いていました。今回は森林講話と枝打ち体験の二部構成で行い、前半と後半とに分けて前半に講話を聞き、後半に枝打ち体験をするグループとその逆のグループに分けました。この方法は現場で説明する時間を節約できたので子供達に枝打ち体験を増やせた事、現場のインストラクターの役割が明確になった事が好評でした。

枝打体験では、鋸の使い方や鋸の当て方や「でべそ」を作らない方法等の指導を受けながら一生懸命に取り掛かりました。

子供達にとって森林体験は一生に一度かもしれないので「楽しいが一番！」で良いと思います。その為には私達が準備をして“安全”と“安心”を確保する事だと思います。(記 ⑯大森 善雄)

初の試みで『枝打ち体験→森林講話』、『森林講話→枝打ち体験』の2班分けとし、

森林講話は7期の小野さんと12期 渡辺2人で担当した。涼風の緑陰で、まず

①枝打ちがなぜ必要か

②枝打ち箇所は木の成長と共に巻き込まれることを図や輪切り片を示しながら説明した。

さらに・森の働き、・水源の大切さ、などの話を加えた。短時間ではあったが、多くの問いかけにも活発な反応があり良い体験になったと思われる。

(記 渡辺 敏幸⑫)



かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取組んでいます。

全国で5番目/NPO法人で初めて委嘱されています。

◆ 第3回 県民参加の森林づくり

日 令和4年6月4日(土) 9:00~13:00 曇り

場 小田原市小竹(住宅供給公社有林)

参 88名

財 藤本様、南橋様

看 榊様

スタッフ 小田原森林組合 城所様他1名

イ L 柏倉④、菊地①、小野⑦、野牛⑧、徳岡⑪、
宮下⑫、大原⑬、小松⑭、大見⑮、西村⑮、
久慈⑯、岡村⑯、中澤⑯、永田⑯、松浦⑯、
祐谷⑯ (16名)

この活動場所は、8年前より整備を継続している現場です。今回の整備で、枯れ竹や劣勢竹はほぼ除伐出来ました。



当日は、前日の雨で湿度は高かったものの、気温は高くなく、また竹林内に適度な風もあったことから、快適に作業出来ました。竹林に入る、竹を伐る、また鋸を使うのが初めての参加者もいましたが、最初の実技説明ですぐ理解いただいたようです。今回の活動場所では剪定ばさみの使用可となっており、参加者に配布されていました。鋸の使用法とホルスターへの一時収納方法、切った枝の先端が尖ること、放り投げると滑って予想外の方向に跳ね飛ぶ

ので厳禁、を周知しました。11時過ぎに作業終了後、周囲を見廻していただき、枯れ竹や斜めになった竹が無くなり、幾分明るくなった竹林を見て、初めての参加者も「きれいになった」と喜ばれていました。

ヒヤリハット、事故、道具紛失ともにありませんでした。

(記 祐谷 重徳⑯ 写真 財団 藤本様)



◆ アコム株式会社 枝打ち活動

日 令和4年6月5日(日) 10:20~12:00 晴れ

場 21世紀の森 平成25年度成長の森

参 28名

県 環境農政局 緑政部 水源環境保全課

水源の森林推進グループ 村田様、竹田様

イ L 牧石⑭、滝沢⑤、上宮田⑩

アコム(株)第2回目の枝打ち活動が平成25年度成長の森で実施された。

10:00スケジュール通り21世紀の森駐車場にバス2台到着。活動準備完了後

10:20~
神代杉前の広場に集合し挨拶、インストラクター紹介、準備体操を行い用具準備。用具準備はアコムの皆



様で倉庫より、ブルーシート、ヘルメット、枝打ち鋸、保護メガネの運搬、班毎に配列していただいた。活動場所に設置されている名板前で成長の森の説明を行い、3班体制で活動開始。今回は1班10名前後の為、インストラクターが目の届くよう、1本の木に対し2名で交代し枝打ち実施。一人目は地際~腰の高さ、二人目は腰の高さ~綺麗に切れる高さまで枝打ちを交代で行った後、枝打ちか所の再確認、修正を行い、完了の手順で実施。

11:45現場での活動終了、活動地をバックに全員で記念撮影が行われた。用具の整備を行い、

12:00活動終了。

参加された皆様より、作業に没頭した、達成感があった、体を動かした楽しかった、活動の大切さがわかった等の感想をいただき無事終了した。

(記、写真 牧石 稔⑭)



◆ 横浜市立東中田小学校 間伐体験

- 日 令和4年6月14日(火) 8:30-12:00 小雨
 場 長竹分収林
 参 86名(5年生児童78名 教師8名)
 財 豊丸課長、古舘様
 1 L 松石⑬、佐藤⑤、小野⑦、松本⑪、西出⑫、水上⑬、
 牧石⑭、大岡⑮、竹内⑮、大友⑯、岡村⑰

前夜の雨が上がり、なんとか活動にこぎ着けられたかと思っただが、子供たちを乗せたバスが葦尾根ふれあい広場に到着した9時頃、霧雨のような小雨が落ちてきた。

今日の安全目標を「足元に注意」とし、湿った斜面と増殖中のヤマビル、そして枝の散乱に注意。

子供たちは、バスから降りると合羽と足首ビニールスパッツで身を固め、8班別に道具配布場所で頭にヘルメットとフェイスシールド、枝打ち鋸を腰に付け、間伐地まで10分くらいの山道を早くもヤマビルと戦いながら登り、班毎に区分けされた作業場に到着して、担当インストから間伐の必要性、方法などの説明を聞いてから作業を開始です。伐倒木は、20年前後のヒノキ。

間伐場所は枯れ枝が散乱していて斜面もかなり急ですが、子ども達は頑張ってノコギリを曳いてくれました。伐倒の瞬間は、明るい歓声が上がります。枝処理、玉切りまでで、残念ながらタイムアップ。

コースター作りが終了できなかった班は、学校に帰って行えるように

40、50cmの玉切り材を持ち帰ってもらい、悪天候のなか怪我なく作業は終了し、当日は愛川ふれあいの村に宿泊です。

バスを見送ったあと、インストラクターの約半数はヤマビルの餌食になっていました。

(記 大岡 正行⑮ 写真 松石 藤夫⑬)



◆ 第4回 県民参加の森林づくり 下刈り

- 日 令和4年6月18日(土) 9:30~15:10 曇り
 場 相模原市緑区鳥屋
 参 57名
 財 豊丸課長、藤本様、南橋様
 看 佃様
 ス 相模原市町みどり公社 志村様 山崎様
 他 かながわ緑の大使 柏木悠杏様
 1 L 佐藤⑤、柏倉④、滝澤⑤、小野⑦、波多野⑨、
 小笠原⑩、西出⑫、水上⑬、野村⑭、水野⑭、久次米⑰

今年度4回目の県民参加の森林づくり活動、厚木市内の駐車場からマイクロバス4台で宮ヶ瀬湖の鳥井原ふれあいの館を目指す。現地集合の人達と合流しオリエンテーションを開始、近接作業にならないよう「周囲確認」を本日の安全目標とすると共に、2~5班は作業地の鹿柵内に入る際に脚立の昇降があるので無理な人は1班への編入も可能なので無理をしないようにとの注意があった。

1班はカヤが旺盛なこと、急斜面があるなど他班に比べて大変と思われたが時間内には完了、他班のエリアはやわらかい草が刈り難そうな箇所もあった

が丁寧に刈り取られていた。本日、特別参加のかながわ緑の大使/柏木さんも2班で下刈り作業を初体験した。作業は若干早めに完了、朝の集

合場所に戻り閉会の後、昼食をとった。

午後は近くの鳥屋地域センターにバス移動し、ボランティア発表会に参加、会場では緑の募金活動も行われた。発表テーマは下記の2件で、丹沢山塊に雪形の「白馬」が見られる話と地元/根小屋地区で荒れた里山を守ろうと始めた活動の報告で「(つちざわには)特別のものはないが、あるべきものはある」との言葉が印象的であった。

・雪が降ると丹沢山塊に「白馬」が出現する(鳥屋造林組合)

・楽しみながら森をつなぐ~つちざわの森~(合同会社ヘリテージキーパー)

(記 写真 佐藤 武晴⑤)



やどりき水源林ミニガイド

「森の案内人」

案内人は、皆様をお待ちしています。

水源林にお出かけください。

やどりき水源林ニュース7月号
発行しました。



<http://www.forest-kanagawa.jp/4field/news/news196.pdf>

- やどりき水源林問合せ:
(公財)かながわトラストみどり財団
TEL: 045-412-2255
FAX: 045-412-2300
●ホームページ: <http://www.ktm.or.jp>
E-mail: midori@ktm.or.jp

年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会

宛まで2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

編集人: 黒川 敏史

広報部: 吉田郁夫 松本保 笠原かずみ
阿藤壽孝 長尾晴子
竹内明彦 柳澤千恵美 小林照夫
中澤良夫
支援: 大原正志 江頭淑子

森のなかまは過去号もご覧になれます。

(ホームページ) <http://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>
(HP担当: 井出恒夫)

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

黒川 敏史
kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp
Tel: 080-5477-2206

<電子配信会員向け担当> 笠原

Mail: happy_kumakuma711@icloud.com

<電子配信企業等パートナー様向け担当>

柳澤 Mail: kshinrin_pr@icloud.com

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】黒川 敏史
Fax: 0467-46-8650
電話連絡先: 080-5477-2206
kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

【別冊】小林 照夫
Mail: tspocket17@gmail.com

原稿は随時受け付けています。

水源林のつどい

8/6に3年ぶりに開催される「水源林のつどい」のおさらい

- ・参加者は、500人程度になります。
- ・インストラクターは、66人
- ・スケジュール
松田町役場からバスで会場へ
10:00からトレッキング、水生生物、森林癒やしなど開始

- 12:00から式典
- 13:00から各ブースで、丸太切り、クラフト、体験遊びなど
- 14:00 閉会

の流れです。インストラクターは、午前中のトレッキング案内
午後のブースでの対応になります。

- ・参加者に喜んでもらえるようにインストラクターの皆様よろしくお願ひします。
- 統括リーダーは、森本さん⑤です。

編集後記

★コロナの連続と暑さで気が滅入りますが、春のウグイスに続き我が家の近くには早朝に”チョピチ、チョピチー”と鳴いている鳥がいます。それは”ヒガラ”です。癒やされます。(松本)

★6月末に八幡平の高原と温泉めぐりをしてきました。この時期は多くの色とりどりの高山植物が咲いています。八幡平頂上近くでは融雪現象のドラゴンアイを見ることができました。(阿藤)

★茅ヶ崎小出下寺尾のハウスで「オーガニックきくらげ」の栽培始めて1年が経過し、市内のスーパーマーケットに出荷できるようになった。私の座右の銘は「人生無駄なことは何一つ無い」。銀行出身の私は今の仕事は想定すら無かった。自然に憧れ山に明け暮れた学生時代の夢を実現するため森林インストラクターになった。先輩方同様に私もボランティア団体で活動しています。その活動を通じて始めた副業で思うことは、私の人生には必然性があるのであって、無駄なことは何一つなかったと思えるようになった。(小林)

★長寿時代になっても、歩けなくなれば人生すべてがダメになってしまう。そう思うと怖い…。足腰の衰え防止策に「スクワット」と「ウォーキング」を日課に掲げた。始めてまだ半年足らずではあるが、調子は上々と実感。息を吐きながら4秒かけて膝を折る。足は膝が直角になることに留意して、鼻から息を吸いながらゆっくり4秒で立ち上がる。その動作を、毎日30回。大腿筋のみならず全身の筋肉を刺激する運動なのだそう。継続は力、スクワットで身体機能の安心安全を確保していきたい。

★国立劇場、歌舞伎座の人気演目のチケットがさばけないそうです。この二年間で高齢者のライフスタイルが大きく変わってしまったのかな。僕も二年間、歌舞伎や文楽にご無沙汰。7月末、友人はもうどうなってもいいや、と言い残してアジアに旅立ちました。心が揺れます。(竹内)